追手門学院大学 校友会会報

SINCE 1966 OTEMON GAKUIN UNIVERSITY

第49号　平成8(1996)年2月12日

発行者　〒567 茨木市西安威2—1—15
追手門学院大学校友会
会長　関　謙二
☎ 0726-43-5421　内線451
© 1996
編集者　平野昌雄

600万円の御協力ありがとう

被災者の方々に義援金をお贈りしました

阪神大震災から一年を迎えようとしています。被災者の方々には、自力で再起された方も多いと思いますが、未だ避難所暮らしを強いられている方もおられ、重ねてお見舞い申し上げます。本会は震災後、「阪神大震災再起復興義援金」を会員各位、母校関係者の方々にお願いしておりましたところ、みなさま方から五百八十万円余りのお心をお寄せいただきました。ご協力有難うございました。本年正月七日、理事会を開いてこの義援金の使途について協議し、左記のように決定いたしましたので報告させていただきます。

まず本会役員の方々に再度の協力を願い、義援金総額を六百万円といたしました。半額を被災のご連絡をいただいた会員の方々に、残る半額は毎日新聞社大阪社会事業団に、義援金が被災地の震災孤児等の方々に有効に生かされるところにお贈りいたします。

会員への義援金は三つに区分することとしました。現行終身会費の二分の一相当額をお贈りし、約百三十名の該当者に、現金書留でお見舞いの意を添えて郵送させていただきました。

被災された特別会員（現・旧職員）の方々にも義援金をお贈りすることとしました。本会より大学事務局長を通じてお贈りさせていただきました。

しかし、震災によって御両親を亡くされた震災孤児の方、依然援助を必要とされる方がおられます。理事会ではこの方々のために、募金活動を継続していくことを付帯決議いたしました。

不幸にも亡くなられた三名の会員のご遺族には、現行終身会費相当額と一周忌の御供花代をお贈りさせていただきました。

会長または副会長が個人の御宅に出向き、霊前にお供えさせていただきました。

次に被災された正会員（卒業生）の方々にも義援金をお贈りさせていただきました。

平成七年度　各種事業が決定

正月七日の理事会では、義援金の使途の協議以外に平成七年度事業計画で打ち出しておりました各種事業実施について決定しました。

〈母校5号館竣工記念品について〉

母校5号館が竣工し、四月二十日には併せて創立三十周年を記念して式典が行われます。その時までに、本会からの記念品として、5号館前庭部にソーラー時計を建立します。購入に当たっては、数社から見積を取って慎重に検討することにしております。

〈財団設立について〉

みなさまからお預かりした終身会費の保全と今後の校友会活動の発展的充実のため、早急に設立いたします。財団の事業目的は国際学術振興、受入れ金融機関は摂津信用金庫と決定いたしました。

〈東海支部の発足について〉

発起人の方々のご尽力で、いよいよ東海支部が発足します。

発会式は二月二十五日（日）午後二時半から
場所は名鉄ニューグランドホテル7階・椿の間、会費は八千円です。

当該地区の会員の方にはご連絡が届いていますが、他地域の会員の方々で出席を希望されるのも大歓迎です。本会事務局（電話〇七二—四三—六一三五番＝直通）までご連絡下さい。または、発起人・高井郁子さん（電話〇五九二—二八—三三八〇番）にお問い合わせ下さい。

〈支部助成金について〉

毎年、各支部に対して助成（十万円）をしてきましたが、自立運営を図っていただくために、助成する期間に限度を設定させていただきました。設立時より五年間を限度とすることとなりました。

〈三十周年記念事業について〉

すでに計画としてお知らせしておりますが、会員名簿を刊行いたします。つきましては、精度を高めるための確認作業を行います。会報のお届け住所、勤務先の変更等がありましたら、事務局までハガキでご連絡お願いいたします。

また、名簿に掲載する広告も募集いたします。名簿発行には多額の費用がかかります。会員の方々が経営する企業、勤務先の広告提供をお願い申し上げます。

支部総会のご案内

本会の東京支部、中・四国支部、九州支部の総会と懇親会をそれぞれ開きます。お友だちをお誘いになり、お集まり下さるようお願い致します。

〈九州支部〉
2月24日(土)午後3時から
八千閣（福岡市博多区駅東二—七—七。☎〇九二—四一—四一四一）会費は五千円です。

〈中・四国支部〉
3月3日(日)午後一時から
三好野本店（岡山市駅前一—三。☎〇八六—二二五—二二五五）会費は四千円です。

〈東京支部〉
3月10日(日)正午から。
銀座アスター本店（東京都中野区銀座一—八—一六。☎〇三—三五六三—一〇一一）会費は八千円です。

なお、地域外の方の御参加も歓迎します。予約の都合がありますので、あらかじめ本会事務局（電話〇七二—四三—六一三五）までご連絡お願い申し上げます。

お願い

義援金の御協力ありがとうございました。先般、被災地の方々にお届けしました。被災されたにもかかわらず、数十万円お贈り下さった会員に頭が下がる思いです。

本会では継続し、募金活動を行っていきます。継続したご協力お願い致します。罹災地域にお住まいの会員諸氏、その方々と交流のある皆さんから、ご近況や情報のお便りも会報に掲載していきたい、と考えています。どんなことでも結構ですから、皆さんの声をハガキで事務局までお知らせください。

電話　〇七二六(43)六一三五番（直通）
FAX　〇七二六(43)六〇九九番

阪神大震災

被災者孤児遺子支援義援金

継続してご協力をお願いします

一口　五千円（何口でも　よろしくお願いします）
現金書留で現在受付けています。
振込みにあたっては、三和銀行、住友銀行、郵便振替を御用意致します。次回会報に振込用紙を同封しますので、その節、一層の御協力をお願いします。

予告 ⇨ 来る5月6日(振替休日)午前11時より帝国ホテル大阪で、母校創立30周年記念の校友会総会と懇親会を開催します。詳しくは別報でお知らせします!!

ホームカミングデー

風の匂いを

中村幸代（旧姓・植田、昭和53年文心）

「学生の時は単なる第二外国語で取ったつもりだったのに、なんで今フランス語の仕事に首をつっこんでるんだろう。こうなることが解っていたらもう少し専門的な勉強をした方がよかったかな……。フランス語会話も頭が柔らかいうちからやっていたら、こんなに苦労はしなかっただろう」とホームカミングデーの日、大学への坂道を登りながら考えていた。いやいや、心理の実験も結構おもしろかった。毎日幼稚園へ行っては園児を被験者に実験をしたものの最初にたてた仮説と一致せず、なんとか結論をひねりだした卒論は大切な学生時代の思い出として今も手元に残してある。

大学二年の時、落合先生を囲んで、五、六人の学生で「心理学の認識」という本を読む勉強会をしていた。その本の確か「記憶」の所だったと思うが、ブルーストの「失われた時をもとめて」が載っていた。スプーンの中の紅茶にマドレーヌをひたして食べた時に、子供の頃の記憶がよみがえってきたというくだりがあった。私は今、反対に「ブルースト」や「マドレーヌ」という言葉を聞く度に、一号館二階にあった部屋の光景や風の匂いを思い出す。

ホームカミングデー

来年は家族総出だ

尾崎貞良（昭和49年経営）

十一月三日、久々に将軍山祭を訪れ学生の熱気を興奮に包まれました。

キャンパス狭しと並ぶ模擬店、パネル、ポスター。テニスコートでは学長杯争奪硬式テニス大会。学生時代を思い出して胸熱くなるものを感じ、いまだ学生であるかの様な錯覚の中、学内を見回りました。大学学部が増え、新校舎も次々と出来、学生は活気にあふれていました。その発展ぶりは卒業生としてうれしいばかりです。

午後二時からは、ホームカミングデー。

一号館三階の会場に行くとなつかしい先生の顔。そして大勢の卒業生。なにより豪華な食事と飲み物が目を引き、顔見知りはいなかったものの同じ卒業生同志思い出話に花が咲き、食べ放題、飲み放題に時のたつのを忘れて楽しませていただきました。

夕食の分まで食べて帰り、来年は家族総出で行かなくてはと決めました。

お世話頂いた学生部長の福井南海男先生、並びに校友会の役員の皆様ありがとうございました。

一つの起点として

50年卒英米1組

95年一月十七日午前五時四十六分。一体何が起こったのでしょうか。今日で十か月前の事になりますが、あまりの突然の出来事でよく思い出せません。今の時点で六千二百九十名もの尊い命が奪われ、多くの方が心身両面で傷つかれ、大勢の人の住んでおられた家がひどい損傷をうけられた未曾有の大震災でした。

昭和五十年に文学部英米語学文学科一組を卒業しました私達は、去る十一月五日に心斎橋のホテル日航大阪で、松井進平先生、樋口靖先生をお迎えして同窓生十五名が歓談の一時＝写真＝をもたせていただくことができました。仲間の中にはすでに夭折されたり、今回の大震災で大切な肉親を亡くされたり、ご自宅の被害が大きくご出席願えなかった方もおられました。

私達は旧交をあたためると同時に、今日の日を一つの起点としてお互いに励まし合っていこうと誓いました。

なお、今回の会を開催させていただけた契機は、次回の幹事の一人でいらっしゃる方から、震災の安否を気遣って下さったお電話であったことを特筆させていただきます。

これからも会報を楽しく読ませて頂きます。これからの季節お風邪などひかれませんよう、お体御自愛下さい。

市橋先生祝賀会の御礼

栃尾真一（昭和58年経営・02年院経営）

この度は市橋英世先生の勲三等旭日中綬章叙勲の祝賀会につきましては、追大卒業生の連絡先をお教え下さり、厚くお礼申し上げます。盛大な祝賀会を催すことが出来ました。お礼申し上げます。

平成七年九月二十四日午後四時半より、都ホテル大阪（大阪市天王寺区上本町六丁目）にて、大阪府立大学名誉教授市橋英世先生の勲三等旭日中綬章叙勲の記念祝賀会が開催されました。市橋英世先生は本学（追大）では、経営組織論をご担当になり、昭和58年から多くの学生がご指導を仰ぎました。また、ゼミでは百数十名の学生がご指導を仰ぎました。当日は大阪府立大学長・平紗多賀夫先生、追手門学院大学長・後藤幸男先生、甲子園大学長・河村洋二郎先生を始めとする多くの方のご出席を得て、盛大に行われました。また、多くの卒業生からお祝いを戴き、素晴らしい記念品（一勲章と書状を飾るための額）を贈られて、市橋先生も大喜びでした。

また当日は大阪府大、追大、甲子園大の卒業生が合計63名出席しました。結局、追大卒は私だけでしたが、記念品代を追大卒七名の方が賛同して送ってくれました。

この部分には会員の住所変更等が掲載されていました。
個人情報の観点から、この縮刷版には掲載しておりません。

会員のみなさまに

会長　関　謙二

阪神大震災再起

復興義援金について

この号で、お知らせしております通り、会員各位より寄せられました表記の義援金は、去る一月七日に本会理事会の席上で五百八十万四千二百八十円と、報告されました。

その後、役員に重ねて協力をお願いし六百万円を超えました。

一月十四日、残念にもお亡くなりになった校友会員のご遺族をお訪ねし、弔慰金と一週忌供花料をお渡しして参りました。

また十六日付けでお見舞金を被災された校友会員へ現金書留でお送りし、また、特別会員に対しても、別に掲載しておりますように大学当局の事務局長に三十万円をお渡し致しました。

義援金の半額の三百万円は、毎日新聞大阪社会事業団を訪れ、毎日新聞側の要請もあり「阪神大震災にも義援金」として寄託致しました。なお、別の欄に、毎日新聞の事業団事務局長よりのお礼状を掲載しております。ご参考までに御覧ください。

阪神大震災被災遺児・孤児へ援助活動を継続

一月七日の理事会では、この活動を今回限りで止めるのではなく、被災した孤児や遺児の援護に切り替え継続して行こうということに決定しましたので、今後とも校友会員各位の強力なご協力をお願い致します。

具体的には、次の会報でお知らせ致します。

東海支部の発会式を開催

二月二十五日（日）午後から

被災校友会員からの便り

「頑張っていきます！」

多田　佳代（平成3年文社）

お父様より

先日はご多忙中にもかかわらず遠路お越しいただき、その上ご丁寧にも過分の弔慰金ならびに御花料を賜りまして、真に有り難うございました。

また、会報を読ませていただき、皆様の大変な御苦労に頭が下がる思いです。おかげさまで皆様の温かいお心に励まされて、私共も無事一週忌を済ますことが出来ました。

今後、やらなければならない事が多々ありますが、何とかがんばってゆきたいと思っております。真に些少ではございますが、便にて送金させていただきますので財団設立のお役に立てていただきたいと思います。

末筆ながら、追手門学院の益々のご発展と、校友会皆様のご健勝、ご健闘を心よりお祈り申し上げます。

田中　幸治（昭和56年経経）

お母様より

今、現金書留を受け取りました。このようにまでしていただきまして有難うございます。本人は関東の方に勤めておりますので代わりましてお電話させていただきました。関係者の方々によろしくお伝え下さい。

福島　正義（昭和55年経経）

お父様より

現金書留を受け取りました。このようにしてもらって有難いですが、実は平成七年三月六日午後、息子は急性心臓病で亡くなっております（震災後の過労が原因？今、弁護士が入って手続きをしています）ので、お返ししなければいけないのではないでしょうか。どのような手続きをさせてもらえばよろしいでしょうか。

米山　武（昭和57年経営）

どうも有難うございました。頑張っております。今後ともよろしくお願い致します。

小西真由美（平成元年経営）

本日はお見舞金を頂戴致しまして、誠に有難うございました。卒業生の私にまで温かいお心配りを頂き、家族共々うれしく思っております。家の方も徐々にではありますが修繕しております。母の怪我もだいぶんとよくなりました。話は変わりますが拾十一月三日のホームカミングデーはとても楽しかったです。今年は三十周年ですね。これからの母校の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。寒いですがお体にお気を付けて下さい。

藤井　実（昭和50年経営）

この度は校友会のみなさまに心温まるお見舞いをいただきましてありがとうございます。

これから先、家族力を合わせてがんばって行きます。

簡単ですが、ありがとうございました。

重田　芳博（昭和48年経経）

昨日は思いがけず震災のお見舞いをいただき、有難うございました。本当に心温まるありがたいお心遣いに家族一同、深く感謝申し上げております。その節はご心配をしていただき本当に有難うございました。

お陰様で全壊しました家も昨年秋に無事完成し、親子共々よろやく落ち着いてくらし始めております。どうぞご安心下さいませ。取り急ぎお礼のご挨拶を申し上げます。

斉藤　智子（昭和59年文心）

先日は心のこもったお見舞金をお送り下さり、ありがとうございました。あれから一年経ったものの、あの日だけは一つ別のところにひっかかったままで、時間の流れから去っていきそうもないです。たくさんの生命が奪い去られ、心が痛みます。またいろいろなことを考えさせられ反省しました。一日一日大切に生きていけるということがありがたいと感じる次第です。

昨年はその他にも暗いニュースが多かったですが、今年は（今後一明るい希望あることを願います。本当にありがとうございました。

橋本　隆司（昭和53年文英）

一月十七日に御見舞金のご郵送、有難う御座居ました。

家の半壊、修理の方もう少し残る位になりました。今後、元気に頑張ってまいります。先ずは御礼まで。

金森　理（平成6年文英）

いつもお世話様でありがとうございます。

このたびは暖かい御心を頂きまして、ありがとうございます。十一か月程、泉北ニュータウンに居りましたが、元の灘に工事中ですが家だけ出来、戻っております。体が元気で毎日、仕事に頑張って暮らして感謝致しております。会のみなさま方のご多幸を祈ります。

春山　清子（昭和59年文英）

この度は、お見舞金を送って頂き、ありがとうございました。お見舞金が届いた一月十七日はどのテレビでも一年前の恐ろしい映像がうつし出されていました。震災をどこかに知らない地域の人には生々しい映像が興味深く一番効果的なのでしょうが、あの瞬間を経験した私たちにとっては、まだ映像を見るにつけあの時の恐怖が鮮明に思い出され、恐くてつらすぎます。

悲しいのか、くやしいのか、わからないけど、涙があふれてきてしまうのです。でも、あの震災で得たものも多く、一番感じられたのは人を救えるのは人しかいないんだ……。そして人間とは、こんなにも弱くてまた、こんなにも優しくなれるものなのかということです。

ただ、同じ大学の卒業生というだけで、会ったこともない多くの人々からこんなにも暖かい気持ちを頂いて本当に感謝しています。ありがとうございました。

丹治　恒夫（昭和54年経経）

お母様より

震災から早や一年、その節にはお寄ねド下され有難うございました。又、此の度は義援金ご送付下され感謝致しております。二人の息子勤め出して広い家で一人留守って又、畑に出かけて作業をし乍らよき縁が恵まれます様祈って居り年老いた老母の日々です。

三木佐知子（平成6年文英）

早や、あの大震災から一年が過ぎ町のあちこちから復興の槌音が聞こえてくる日々となりました。

過日は思いもかけず過分なお見舞金をいただきましてありがとうございました。我が家は来月から自宅の建築にとりかかりますのでこのお見舞金を有効に使わせていただきます。

寒さ厳しき折り、皆様ご自愛下さい。心より一筆お礼申し上げます。

お礼の手紙

毎日新聞大阪社会事業団
事務局長　橋本　博行

先日はわざわざ多額のご寄託をご持参いただき誠にありがとうございました。

早速ですが、掲載紙（一月17日号）を送らせていただきました。25ページの「希望新聞」の面に載っております。

また、ご寄託いただいた「こども救援金」で今後進めていく事業についての詳しい記事が「阪神大震災一年特集」の2ページに載っていますので、ご一読いただければ幸いです。

ご寄託いただいたお金はこうした事業に有効に使わせていただきます。今後もよろしくお願いいたしますと共にみなさまにもよろしくお伝え下さい。

取り急ぎお礼のみで失礼いたします。

深く感謝致しますと共に母校の益々の発展を心より祈願申し上げます。

昼間の連絡先（勤務先）㈱藤三商会　神戸支店（〇七八―四五一―三五三一）

藤田　十九（昭和63年文社）

この度の震災に際し、お見舞いをお送りいただき、校友会会員、並び役員の皆様方に御礼申し上げます。

この一年はあっという間でした。地震当日は情報も少なく底冷えのする小学校でまるで空襲を受けているかの如く燃える長田の大火を見ながら眠れない一夜を過ごしました。夢の中にもその光景が出てきます。

何十秒かの揺れが直前まで流れていた普通の時間を歪め、楽しい夢を見ていたかも知れぬ多くの命を奪っていった事は今なおただただ悲しいだけです。

私は家がつぶれただけで本当に良かった。命が助かった事は本当に運が良かった。そしてこうして心配して下さる母校がある事を誇りに思います。

とりいそぎ御礼のみ申し上げます。

宮澤　啓子（平成4年文心）

この度は震災のお見舞金をお送り下さいまして、ありがとうございました。恐縮に存じます。皆様のご好意に感謝致します。

震災直後は交通不便により大阪の親戚宅より通勤するなど不自由なことも多々ありましたが、多くの方の御援助も心に残っております。

長くもあり短くもあった一年が過ぎ、生活の方は落ち着いて参りましたが家の修繕等はこれからでございます。皆様のお気持ちに添えるよう生かしたいと思います。

校友会の皆様方に厚く御礼申し上げます。今後の御発展をお祈りいたしております。まずはお礼まで。

願い申し上げます。

先ずは取敢えず御礼まで。

東野　雅子（平成元年経）

先日はお見舞金をいただきまして誠にありがとうございました。

自宅の方もようやく新築工事が始まり今年五月末には元の所へ戻れる予定です。

豊中の親戚宅へ避難しておりましたが、四月末に仮設住宅があたり、神戸へ戻ってきました。

現在の住所は下記の通りとなっておりますのでお知らせ致します。

最後になりましたが、校友会会員の方々の暖かいお気持ちに

再起復興

義援金に協力頂き有難うございました

（五百八十七万円）

（敬称略）

| | | |